【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立牛津高等学校
1 前年度 評価結果の概要	・全職員が学校の教育目標の実現に向けて取り組むことができた。 ・学校評価アンケートでは、生徒・保護者から概ね良好な評価を得ることができた。特に、「基本的な生活習慣や規範意識」「電子黒板や学習用PCの効果的使用」では、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると90ポイント以上であった。
2 学校教育目標	人格の向上を目指し、教養を高めるとともに、専門的な知識・技術の習得を図り、心身ともに健全で調和のとれた有為な職業人として志を高く持ち、社会に貢献できる人材を育成する。
3 本年度の重点目標	・人間性と専門性を兼ね備えた生産産業を担う職業人を育成できるように、知・徳・体バランスの取れた教育を推進し、魅力ある学校づくりを行う。 ・業務改善・教職員の働き方改革を促進する。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○共通教科の基礎学力の向上	○基礎力診断テストの成績でD1以上の生徒の割合を60%以上にする。	・目標標準を意識した授業の工夫・改善を図るとともに、適切な課題の出し方について各教科内で共通理解を図り、実践する。	A	・4月、8月に実施した基礎力診断テストの結果、1年・2年ともに、D1以上の生徒の割合が70%を超える結果となった。 ・今後も引き続き、授業の工夫・改善を図り、更なる基礎学力の向上を目指したい。	A	・成果指標は達成できている。 ・各教科のテストや課題の提出等は概ねできているようだが、家庭での学習が十分できるとは言い難い。更なる基礎学力の定着を目指すには、継続的な指導が必要である。
	○家庭科教育の充実 ・専門的学習の基礎・基本の定着 ・起業家マインドの育成	○家庭科技術検定の合格率100%とする。 ○専門科目や「起業家入門Ⅰ・Ⅱ」などを通して起業家マインドの育成を目指す。起業家入門Ⅰ希望者は定員100%とする。	・指導方法や教材についての研究を行うと共に生徒個々の到達度に応じた指導を行う。 ・技術の到達度を評価する独自の実技テストを実施する。 ・起業家マインドの育成について、「起業家入門」各科目において指導者の意識の共有を図る。	A	・現在まで実施している家庭科技術検定に関しては、個々に応じたきめ細やかな指導を行い、100%に近い合格率の見通しである。 ・「起業家入門Ⅰ」については、定員100%希望し、学科を超えたグループ活動を行い、佐賀県ICTプレゼンテーション最終審査において発表し、学習成果を得た。	A	・家庭科技術検定3・4級については個に応じたきめ細やかな指導を行ったことにより、食物、被服、保育各分野100%合格。1・2級は食物100%、被服88%、保育70%であった。 ・「起業家入門Ⅰ」については、定員100%を満了し、学科を超えたグループ活動を行い、充実した企画内容をプレゼンテーションすることができた。また、佐賀県ICTプレゼンテーション最終審査においても学習の成果を発表することができた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○講演会等を実施し、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心を持つ生徒を90%以上にする。	・性に関する講演会、薬物乱用防止講話等の開催を通して、自分や他人を大切にする心を育成する。 ・総合的な探求の時間やボランティア活動を通して、他者への思いやりや社会性など豊かな心を身につけさせる教育活動を行う。 ・授業や様々な場面において、豊かな心を身に付ける教育を行う。	A	・10月に性に関する講演会、12月に薬物乱用防止講話をオンラインによる全クラスへの配信という形で実施した。 ・総合的な探求の時間に社会人のマナーについての講演を実施したり、演習を行った。 ・12月に家庭クラブ活動の一環として、校外清掃活動を行った。	A	・中間評価で記載したような各種講演会や活動を行った結果、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心を持つ生徒の割合は、数値としてはつかめてはいないが、生徒の様子や感想文等によると、意識の向上が見られた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校では、いじめや差別をしないさせない許さない教育が行われていると回答した生徒を80%以上にする。	・いじめに関するアンケートを2回以上実施し、また面談や学校生活のあらゆる場面を活用し、生徒の実態把握に努めると共に、いじめの芽を早期発見し、早期解決を目指す。 ・職員研修を行い、組織的ないじめ対応を行う。	B	・いじめに関するアンケートを、予定どおりの時期に2回実施し、特にアンケートからは、覚知・認知に至る内容はなかった。 ・アンケートではなく、本人や友人からの報告で、8件のいじめ覚知・認知を行った。対応は組織的に行った。	A	・「いじめを許さない教育が行われているか」に対し、「行われている」と思うと回答した生徒は79.7%で、わずかに目標に届かなかった。 ・2回のアンケート、学校生活の観察や面談で把握に努め、担任を中心に組織的対応で、いじめの芽の段階で解決できた。
●健康・体づくり	◎ふるさと佐賀への思いを醸成させるための教育活動	○「佐賀県に誇りや愛着を感じる」/どちらかというと感じる」と回答した生徒を80%以上にする。 ○家庭クラブ活動を通して、地域との交流や活性化に主体的に取り組む生徒を80%以上にする。	・佐賀県の歴史や風土について学ぶ講演会や「佐賀語り」等を活用した事業に4時間程度取り組む。 ・地域貢献・活性化の活動(地域美化作業2回・牛尾山環境美化ボランティア2回・牛尾山梅林梅ちぎり1回・施設訪問1回・交流活動4回)に取り組む。	A	・11月に講演会を実施し、郷土の価値が再認識できたと99%の生徒が回答した。 ・地域美化作業4回、牛尾山環境美化・梅収穫ボランティア2回、交流活動4回を行い、家庭クラブ委員、委員をはじめ全校生徒で行う活動も実施できた。	A	・年間4時間超の学習に取り組み、講演会では、郷土の価値が再認識できたと99%の生徒が回答した。 ・地域美化作業3回、牛尾山環境美化3回、梅収穫ボランティア2回、交流活動4回行った。それぞれの活動で概ね80%以上の希望者が集まり、意欲的に取り組むことができた。
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を95%以上にする。 ○「健康に食事は大切である」と考える生徒を100%にする。	・朝食の大切さについて、保健だよりで発信する。 ・食に関するアンケート調査を行う。 ・家庭科の授業と連携し、望ましい食習慣について考える機会を持たせる。	A	・保健だよりをとおして、生徒に朝食の大切さを伝えた。 ・アンケートの結果、「健康に食事は大切である」と考える生徒は100%であった。 ・家庭科の授業の中で、望ましい食習慣について理解させることができた。	A	・保健だよりをとおして、生徒に朝食の大切さを伝えたが、朝食喫食率は90%であった。 ・アンケートの結果、「健康に食事は大切である」と考える生徒は100%であった。 ・家庭科の授業の中で、望ましい食習慣について理解させることができた。
●安全に関する資質・能力の育成	●安全に関する資質・能力の育成	○非常災害に備える(防災に対する意識を高める)ことができていると考える生徒の割合を90%以上にする。	・防災避難訓練を通して防災に対する意識の向上を図る。	A	・6月に防災避難訓練を実施し、地震や火事が起こった時の対処方法を身につけさせることができた。 ・11月に災害安全教育講演会を実施し、水害に対する対策について学習させることができた。	A	・6月に防災避難訓練、11月に災害安全教育講演会を実施し、防災に対する意識が高まったと考える生徒の割合は95%であった。
	●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする ○自転車マナーやルールを守る意識が向上したと考える生徒を95%以上にする。	○非常災害に備える(防災に対する意識を高める)ことができていると考える生徒の割合を90%以上にする。	・生徒の交通ルール遵守や交通マナーアップのため、交通講話、登校指導、生徒会による声かけ、自転車点検などの取組を実施する。	A	・県に報告するような事故は起きていない。自転車の接触事故が1件おきているがケガ等はない。今年度はマナーアップモデル校でもあるので自転車のマナーアップ向上に尽力したい。	A	・生徒の交通事故については0件だった。なお、自転車の接触事故が5件発生したが、怪我はない。 ・登下校に関する苦情等はまったくなかった。 ・自転車マナーやルールを守る意識が向上したと考える生徒を95%以上にするという目標は達成することができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定	B	・時間外勤務時間の全職員平均34.5時間と昨年度の25.29から増加している。 ・定時退勤日を毎週水曜日に設定し、呼びかけを行っているが、実効性が低い。 ・学校閉庁日は、今年度も夏休業中に3日設定し、夏期休暇取得につながった。	B	・時間外勤務時間(1月末現在)の職員平均26:43時間で、昨年度比10%増となり、時間外在職等時間の上限遵守の職員は84.4%であった。 ・部活動休業日の実績は、概ね達成できている。
	○教職員のスキルアップによる業務効率化	○SEI-Net、校務システム等を有効活用し、業務効率化を推進する。	・全職員がSEI-Net等の機能を有効に活用できるように研修会を実施する。	B	・研修会の実施はできていないものの、日々の業務の中で、職員相互で機能の活用について助言を行い、業務の効率化を目指している。	B	・研修会は実施できなかったものの、年間を通して職員相互で機能の利活用の助言を行い、業務の効率化に向けて取り組んだ。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
○魅力ある学校づくり	○習得した専門的知識や技術をふまえた進路の実現	○進学希望者においては、将来の指導者育成も視野に入れ家政系の大学・短大・専門学校進学を80%以上とする。 ○就職希望者においては、専門技術を活用できる、もしくはそれに関連する事業所への就職を80%以上とする。	・大学・短大・専門学校の学校推薦型選抜(公募)及び一般選抜型入試に対応することのできる指導体制を構築し、生徒の幅広い要望に備える。 ・面談を十分に実施し、生徒の要望のみならず適性等も把握し、事業所との連絡・連携を図りながら細やかな情報提供を行う。 ・定員割れの原因究明を多角的に行い、全職員の共通理解のもとで、体験入学・学校見学会等の工夫・改善を行う。 ・中学生及び保護者に向けての広報の在り方の工夫・改善を行う。 ・学校PRや生徒募集につながる取組(近隣小中学校での家庭科、技術・家庭科の授業のサポート、卒業生からのメッセージの紹介等)を充実させる。	A	・家政系への進学については、4年制大学では75%、短大では89%、専門学校では77%、全体で81%となり、目標を達成できる見通し。 ・専門性を活用もしくはそれに関連する就職については、生活経営科で89%、服飾デザイン科で62%、フードデザイン科で82%、食品調理科で94%、全体で82%となり、目標を達成できる見通し。	A	・家政系への進学については、中間評価時点で達成できた。 ・専門性を活用もしくはそれに関連する就職については、生活経営科78%、服飾デザイン科58%、フードデザイン科80%、食品調理科94%、全体で82%となり、目標を達成した。 ・面談の充実と細かな情報提供が図られた。
	○選ばれる学校づくり	○入試において志願者倍率1.2倍をめざす。	・職員会議において、体験入学や学校説明会、入試の志願状況についての経年変化や考えられる要因等についての説明、質疑を行い、全職員の共通理解を図った。 ・中学生の進路希望調査によると、今年度の特別選抜は募集している全ての部活動に希望者がいるようである。 ・受験希望の比較的低い地域での高校進学相談会に2回参加し、中学生に興味・関心をもってもらうことができた。 ・近隣の中学校に被服、調理実習の授業サポート、また保健福祉事務所での手浴マッサージなど学習の成果を生かした新しい取組で学校PRをすることができた。	B	・職員会議において、体験入学や学校説明会、入試の志願状況についての経年変化や考えられる要因等についての説明、質疑を行い、全職員の共通理解を図った。 ・中学生の進路希望調査によると、今年度の特別選抜は募集している全ての部活動に希望者がいるようである。 ・受験希望の比較的低い地域での高校進学相談会に2回参加し、中学生に興味・関心をもってもらうことができた。 ・近隣の中学校に被服、調理実習の授業サポート、また保健福祉事務所での手浴マッサージなど学習の成果を生かした新しい取組で学校PRをすることができた。	B	・一般選抜においては、成果指標を達成できなかった。一方、特別選抜においては、1.88倍という高倍率となった。これらのことをふまえ、次年度における生徒募集の在り方について、校内で検討を進める必要がある。 ・近隣の中学校回(被服・調理実習のサポート)、校外でのPR回(社会福祉事務所での手浴マッサージ)など新たな取組が行うことができた。 ・学校パンフレットでは、卒業生からのメッセージの紹介ができた。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育</p> <p>本年度のまとめ</p> <p>・「学力向上」については、概ね目標を達成し、特に「電子黒板や学習用PCの効果的使用」では高評価であった。次年度は、更に自宅学習の定着と基礎学力の向上に努め、専門性の更なる追求及び資格取得につなげたい。</p> <p>・「心の教育」についても、概ね目標を達成し、特に「基本的な生活習慣や規範意識」「豊かな心を育成する教育」「ボランティア活動に参加する機会をつくる」で高評価であった。次年度も、学校生活のあらゆる場面を利用し、更に豊かな心を育む教育を進めると同時に、地域をデザインし地域に活力を与える存在であり続けたい。</p> <p>・「健康・体づくり」についても、概ね目標を達成した。特に今年度は、「学校安全総合支援事業」及び「自転車マナーアップモデル校」の指定を受け、どちらに対する意識向上も高評価であった。次年度も、生徒自身がその生涯にわたる自らの安全を確保できるような教育を継続したい。</p> <p>・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、達成が不十分であった。「時間外在職等時間の上限遵守」対策については、更なる業務の見直しや業務の効率化を図る必要がある。次年度は、職員の働き方への意識改革も求められる。</p> <p>・「魅力ある学校づくり」については、「習得した専門的知識や技術を踏まえた進路の実現」については概ね目標を達成したが、「選ばれる学校づくり」については、こまめな広報や近隣の小中学校との交流等は積極的に進めたが、定員割れ解消はできなかった。次年度は、志願者数増を目指し、学校教育目標の達成に向けた教育活動を更に充実させ、唯一無二の誇り高き学校を目指し、職員一丸となってその実現に努めていきたい。</p>
----------------	--